

開園 40 周年記念壁面花壇の作成・展示について

柏原克彦・信太千帆・島田有紀子・濱谷修一

はじめに

平成 28 年（2016 年）に広島市植物公園は開園 40 周年を迎えた。記念事業がいくつか計画される中で、40 周年の記念となる壁面花壇を作成することとなった。

展示準備スケジュール

展示へ向けてのスケジュールを表 1 に記す。

展示場所

カスケード広場西側のベンチ前に設置した。（図 1）。他にも候補地として、イベント広場（斜面前）などが挙げられた。

展示期間

開園記念日である 11 月 3 日の 40 周年記念式典にあわせての公開とし、植栽に使用したジニアやペチュニアの耐寒性や花上がりの限界が 11 月中であろうという判断に基づき、平成 28 年 11 月 3 日～平成 28 年 11 月 23 日までの公開とした。

展示内容

展示場所で確保できる最大幅が 15m だったので、壁面花壇の大きさは高さ 3m 幅 15m とした。本園で常設展示しているフラワーボールで使用しているカセットタイプの壁面花壇装置を想定し、設計した。1 枚あたり高さ 0.75m 幅 1m、植込株数 48 株の展示パネルを、縦 4 枚、横 15 枚使用して一つの壁面とした。合計 60 枚のパネルを使用するので、総植込株数は 2880 株となる（図 2）。

当初は大温室を中心にした本園の風景を描こうとイラスト案を考えていたが、このサイズの壁面花壇では細かな模様の表現が難しいことから変更し。壁面花壇全体を 3m × 3m のサイズで 5 分割し『40』の数字を中心に据え、残りの 4 枚で四季を代表する花（春はサクラ、夏はヒマワリ、秋はモミジ、冬はカトレヤ）を描くこととした（図 3～図 8）。作成時期（表 1 参照）はパンジー・ビオラなどの冬花壇植物が流通する時期であっ

たが、これらは単色ではないことや、株全体に花がつかないことから壁面花壇の絵柄に使用することが難しく、また、展示中の気温では徒長しやすく絵柄が崩れやすいので、あえて今回の壁面花壇では秋花壇植物を使用した。

植栽カセットについて

本園で常設展示されているフラワーボールを作成する際は苗を水ゴケで包んでいるが、今回はスポンジを用いて苗を包んだ。

パネル躯体について

壁面花壇の展示パネルは足場管で作られた躯体に IV 線と結束バンドを用いて固定した。計画では IV 線のみだったが緩かったため結束バンドを併用し補強した（図 9、図 10）。

灌水装置について

壁面花壇には裏側から自動灌水装置を付けた。灌水のタイミングは灌水コンピュータによって調整できるようになっている。今回の壁面花壇には 4 台の灌水コンピュータを使用した。これは、1 度に全面（パネル 60 枚）に灌水するには水圧が足りないため、16 枚、16 枚、16 枚、12 枚の 4 区画に分けて灌水を行うためである。1 回の灌水はそれぞれ 30 分行った。灌水装置のチューブは内径が細く井水では詰まってしまうため、壁面花壇の裏に新たに上水の散水栓を設置した（図 11）。壁面花壇側の配管は設置業者の委託内容に含まれていたが、散水栓から各コンピュータへの配管は本園の職員が行った（図 12）。

植栽カセットの作成

植物苗の根鉢にマグアンプ K（中粒）を付け、スポンジで巻きカセットに入れるという方法で作成した。カセットの作成には広島市植物公園植物友の会管理ボランティアの協力を得た。

展示期間中の育成状況

すべての植物苗はカセット作成時に花を摘んでおいた（カセットの作成から壁面に取り付けるまで約 2 週間の開きがあったため）。ペチュニアは非常に花上がりがよく、設置時には既に十分な花の数が確認できたうえ、その後の展示期間前半も衰えることなく咲き続けたが、展示期

間の終盤にかかり少し勢いに陰りが見えた。冬のカトレヤの図柄に使用したペチュニア‘ジョコンダ (F1) ホワイト’は最初に花上がりが悪くなった。ヒューケラは期間を通して生育がよく、また株が張りすぎて絵柄が崩れることもなく、良好な状態を維持できた。ジニアは、黄色花はよく花が付き展示終了まで問題がなかったが、オレンジ色花は花上がりが悪く期間中もヒマワリの花弁の半分が無いように見えた (図 13,14)。

開園記念式典

開園記念日当日の壁面花壇は除幕によるお披露目が行われ、壁面花壇の前で 40 周年記念式典が行われた (図 15)。

展示終了後

展示終了後は業者により解体撤去が行われた。まず植栽カセットが取り外され、カセットは植物苗、スポンジ、カセット (枠) に分別された。植物残渣は園内のゴミ捨て場で処分された。その後パネルが躯体から取り外され、躯体が解体された。

総括

今回の壁面花壇のサイズを決める際に、幅は展示場所で確保できる最大の幅ということで 15m となったが、高さは管理が可能な範囲で見

栄えが良いサイズとして 3m と決めた。事実、植栽カセットの取り付けや花がら摘み等の管理作業には 3m が限界の高さであった。これ以上高いと作業が危険になると思われる。

前述した通り、最初の計画段階では壁面花壇のデザインは、カスケードから大温室を望む本園の風景を再現する予定であった。しかし、3m × 15m のサイズでは風景を再現していることを見た人に伝えることが難しく、断念した。その後、全国の類似事例などを参考とし、わかりやすいイラストで一枚絵もしくは一枚絵が複数集合したもの、という方針が決まりデザインが決定した。

各イラストの植物材料を選ぶ際に、一つのイラストの中はなるべく同じ植物を使用することを基準とした。つまり、カトレヤの絵のように花弁の色を表現するには同じペチュニア‘ジョコンダ’で色違いを用いる、というようにした。これは、イラストの中で複数の植物を用いることによってその植物の違いがイラスト内で違和感にならないようにするためである。

完成した作品は、カスケードの一番下 (大花壇の前) や展示資料館、ベゴニア温室周辺から見ても十分に絵柄が伝わったので、展示するサイズとしては非常に適切であったと考える。また、入園者からも「大きいですね」という反応をたくさんいただき、概ね好評であった。

表 1 壁面花壇展示準備スケジュール

年	月	旬	内容
28	4	上旬	40 周年記念の壁面花壇作成が決定
		下旬	設置場所の選定、サイズの仮決定 (高さ= 3m、幅= 10m ~ 15m)
	5	上旬	園内会議にてサイズ・展示場所の決定 (高さ= 3m、幅= 15m) (展示場所: カスケード広場)
		下旬	壁面デザインの作成
	6	上旬	↓
		中旬	
		下旬	植栽植物の検討・決定
	7	上旬	↓
		中旬	
		下旬	
	~	~	~~~~
	10	上旬	植栽カセット搬入 / 植物苗購入 / 植栽カセット作成 (約 10 日)
中旬		展示パネル・足場設置	
下旬		植栽カセットはめ込み	
11	上旬	(3 日) 40 周年記念式典で除幕・お披露目	
	中旬	↓	
	下旬	(23 日) 展示終了・撤去	

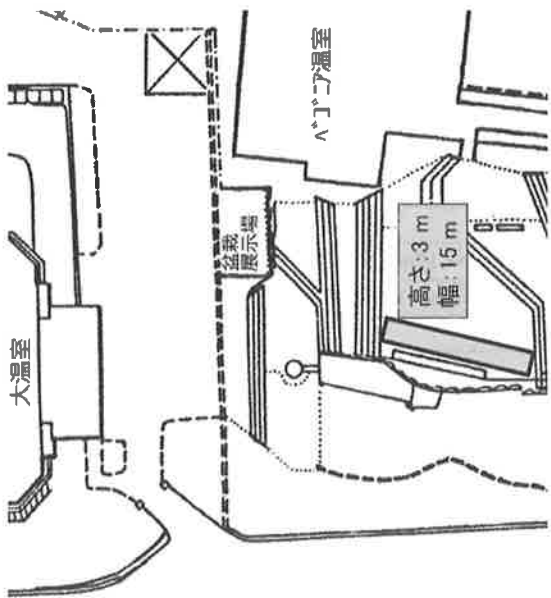


図1 壁面花壇設置場所

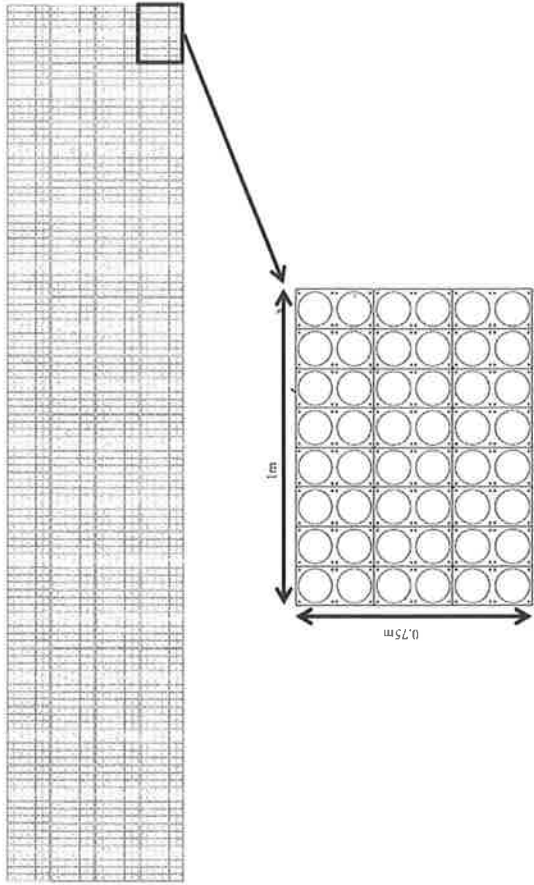


図2 パネル躯体説明

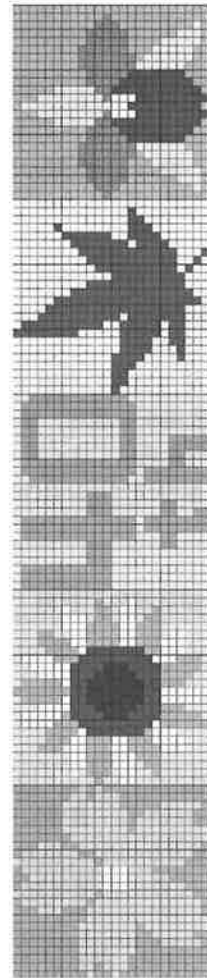


図3 壁面花壇デザイン

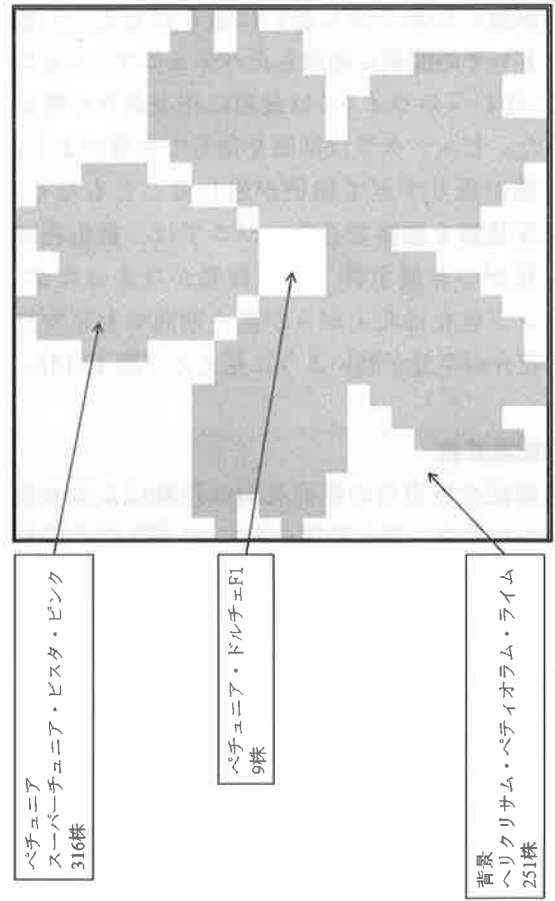
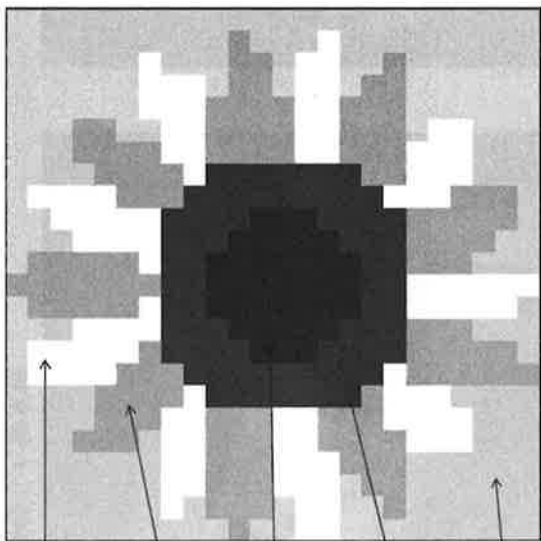
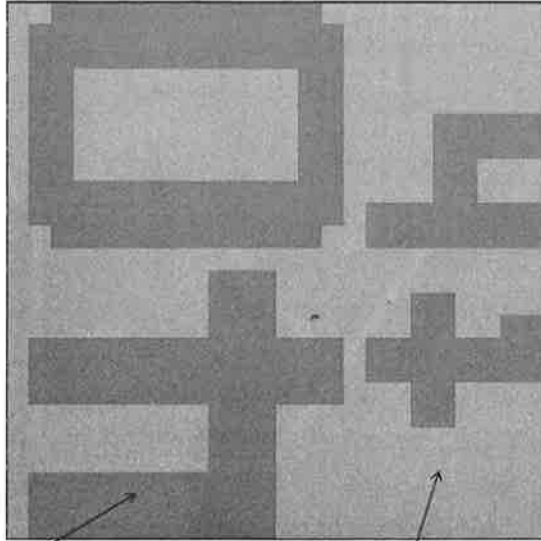


図4 サクラ解説



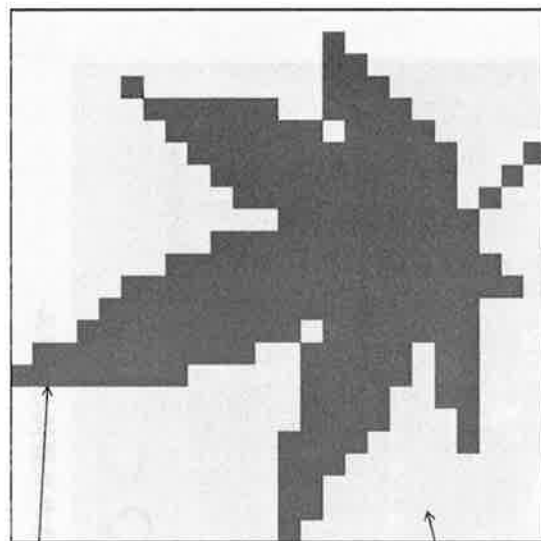
- ジニア
プロフェュジョン・ダブルイエロー
108株
- ジニア
プロフェュジョン・ダブルファイアー
134株
- ヒューケラ
ドルチエ・ブラックナイト
37株
- ヒューケラ
ドルチエ・レッドフェューリー
72株
- 背景
ヘリクリサム・ペティオラム・シルバー
225株

図5 ヒマワリ解説



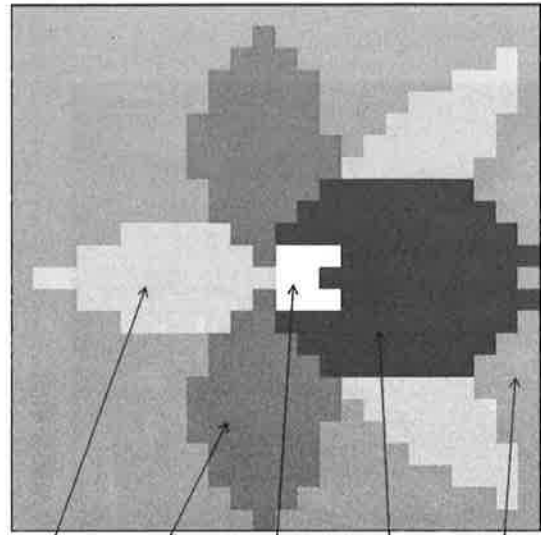
- ヘデラ・ヘリックス
249株
- 背景
モクピヤッコウ
327株

図6 40周年解説



- アルテルナンテラ
208株
- 背景
ヘリクリサム・ペティオラム・シルバー
368株

図7 モミジ解説



- パチュニア
ジョコングダFI・パステルピンク
89株
- パチュニア
ジョコングダFI・ローズ
92株
- パチュニア
ジョコングダFI・ホワイト
8株
- パチュニア
ジョコングダFI・スカレット
81株
- 背景
ヘリクリサム・ペティオラム・ライム
306株

図8 カトレヤ解説



図9 設置された躯体とパネル



図10 パネル躯体構造



図11 新設した散水栓



図12 散水栓から灌水コンピュータへの配管

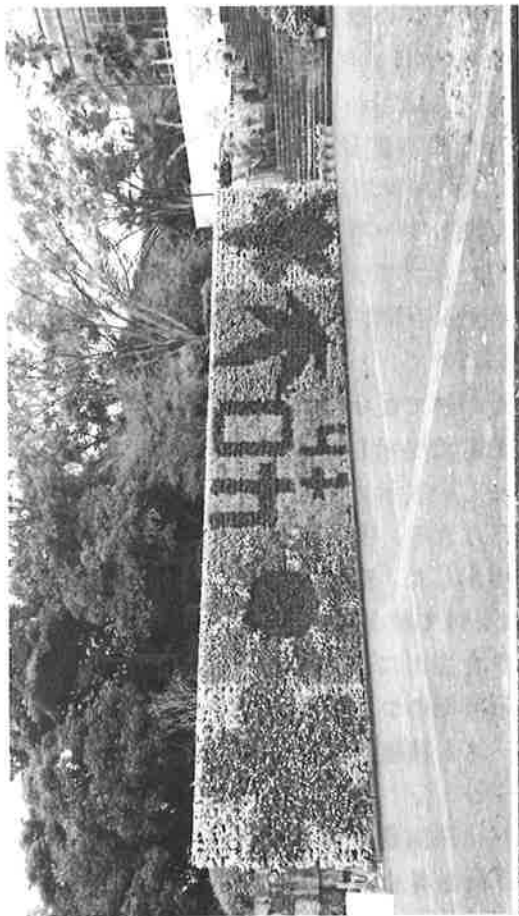


図 14 展示終了間際の壁面花壇

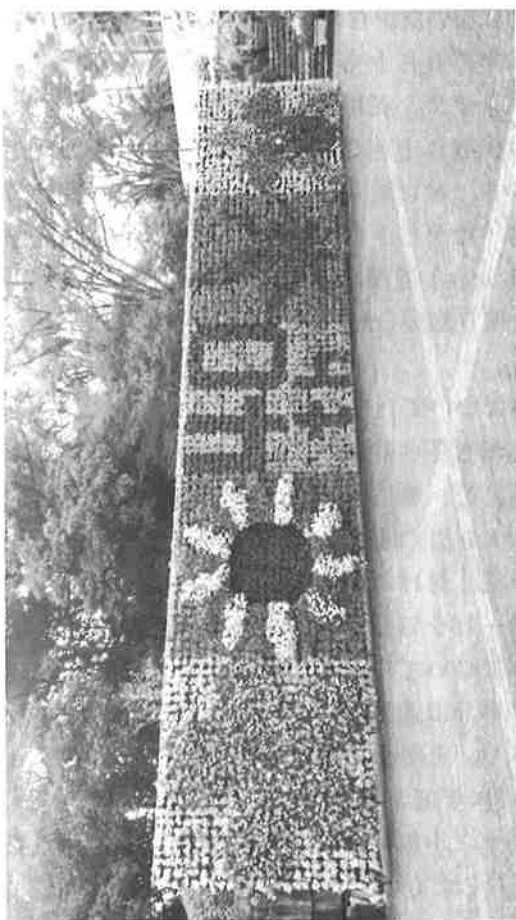


図 13 完成した壁面花壇



図 15 開園記念式典の様子